

## 序

国土交通省・農林水産省においては、積算に係わる作業の合理化、積算価格の透明性の向上、民間取引価格の積算への円滑な反映、ユニットプライス型積算手法の検討等、積算業務の改善・効率化をより一層推進しております。

建設業においても、効率的かつ安全で適正な施工が求められています。一方、建設施工技术は、建設機械の高度化、新技術開発等により格段の進歩を見せていますが、さらに環境対策、安全施工、コスト構造改革等、建設機械を取り巻く環境が変化しており、これらの変化に対応して、建設施工における建設機械の重要性がクローズアップされてきています。

したがって、機械経費の積算の適否が、工事価格の見積りを左右する重要な要素となっておりますが、適用機種を選定や現場の作業条件の決定、機械損料に関する各種補正係数の判断および算定など、積算担当者にとって理解しにくい点もあり、わかりやすい実務書の出版を望む声が多く聞かれます。

このような背景から、経済調査会積算研究会では、汎用性の高い中・小型建設機械を対象に「建設機械経費の積算」を発刊してまいりました。本書においては、国土交通省土木工事標準歩掛、農林水産省土地改良事業等請負工事標準歩掛、請負工事機械経費積算要領の最新の改正に合せ、内容の見直しを図るとともに、積算の簡素化などに関連して、最新の資料を掲載しております。今後とも、一層の充実を図るべく関係各位より忌憚のないご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

平成 18 年 8 月

経済調査会積算研究会

## 目 次

## 建設機械概要

1. 建設機械の歴史と変遷..... 7	策について.....12
2. 建設機械の分類..... 8	4. 建設機械の作業能力.....18
3. 建設施工における地球温暖化対	5. 主要建設機械の概要.....21

## 一般土木工事編

<b>第1章 積算体系</b> .....41	(1) 豪雪地域の補正.....67
1. 積算の体系.....41	(2) 岩石土工作業の補正.....70
2. 工事費の構成.....42	(3) 交替制作業の補正.....70
(1) 直接工事費.....42	(4) 特殊仕様機械の償却費の補正...71
(2) 間接工事費.....43	7. 低騒音型・低振動型建設機械お
(3) 一般管理費等.....45	よび超低騒音型建設機械.....71
3. 工事費の積算.....46	(1) 低騒音型・低振動型建設機械...71
(1) 直接工事費.....47	(2) 超低騒音型建設機械.....72
(2) 間接工事費.....47	8. 排出ガス対策型建設機械.....73
(3) 一般管理費等.....49	9. 無償貸与機械の機械損料.....75
<b>第2章 機械経費の積算</b> .....51	10. 運転経費 .....75
1. 機械経費の構成.....51	(1) 燃料費・電力費・油脂費.....75
2. 機械経費の概要.....51	(2) 労務費.....76
(1) 機械損料.....51	(3) 消耗部品費および雑品費.....77
(2) 運転経費.....52	11. 機械経費積算の実務 .....77
(3) 組立解体費.....53	(1) はじめに.....77
(4) 輸送費.....53	(2) 運転1時間当たり機械経費.....77
(5) 修理施設費.....54	(3) 日当たり施工歩掛による機械
3. 機械損料の構成.....55	経費.....79
4. 建設機械等損料算定表.....57	(4) 機械損料の補正実務.....80
(1) 規格欄等の表示内容.....58	12. 建設機械器具賃料について .....82
(2) 算定表の諸数値.....58	(1) 建設機械等賃料算定基準の対
5. 機械損料の算定.....64	象とする機種.....82
6. 建設機械損料の補正.....67	(2) 賃料について.....82

<b>第3章 機械経費計算実例</b> .....85	工,硬質地盤用アースオーガ
1. ブルドーザ.....85	工) <sup>*</sup> .....145
(1) 掘削押土作業 <sup>*</sup> .....85	(2) パイプロハンマ工(鋼矢板・
(2) 敷均し作業 <sup>*</sup> .....88	H形鋼) <sup>*</sup> .....150
(3) 敷均し締固め作業 <sup>*</sup> .....90	(3) 道路打換え工 .....158
(4) 狭隘箇所の敷均し作業 <sup>*</sup> .....93	(4) 道路除草作業 .....167
2. バックホウ.....95	(5) 堤防除草作業 .....171
(1) 掘削および積込作業 <sup>*</sup> .....95	(6) 路上表層再生工 .....176
(2) 法面整形工 <sup>*</sup> .....99	(7) ローラ転圧コンクリート舗装
(3) 小規模土工 <sup>*</sup> .....101	工(RCCP) <sup>*</sup> .....179
3. クラムシェル <sup>*</sup> .....106	(8) 舗装版破碎工 <sup>*</sup> .....183
4. ダンプトラック .....109	13. 重建設機械の分解・組立 <sup>*</sup> ...191
(1) 運搬作業(標準) <sup>*</sup> .....109	(1) 適用範囲 .....191
(2) 運搬作業(小規模土工) <sup>*</sup> ...113	(2) 使用機械の規格選定 .....193
5. モータグレーダ .....115	(3) 分解・組立歩掛 .....193
(1) 路盤工 <sup>*</sup> .....115	
6. スタビライザ .....118	<b>第4章 資 料</b> .....197
(1) 安定処理工 <sup>*</sup> .....118	請負工事機械経費積算要領 .....198
(2) 路上再生路盤工 .....122	除雪等の作業に使用する建設機械
7. リッパ装置付ブルドーザ .....126	の機械損料について(通知) .....203
(1) 岩掘削作業 <sup>*</sup> .....126	建設機械の消耗部品の損耗費及び
8. 大型ブレーカ .....128	補修費について .....208
(1) 大型ブレーカ掘削Ⅰ) <sup>*</sup> .....128	建設機械等賃料積算基準 .....210
(2) 大型ブレーカ掘削Ⅱ) <sup>*</sup> .....129	建設機械に関する技術指針につい
9. 締固め機械(タイヤローラ,ロ	て .....211
ードローラ,振動ローラ) .....132	建設機械に関する技術指針 .....214
(1) 路体・路床・築堤締固め作	排出ガス対策型建設機械指定要領 219
業 <sup>*</sup> .....132	低騒音型・低振動型建設機械の指
(2) 狭隘箇所の締固め作業 <sup>*</sup> .....134	定に関する規程について .....227
(3) 路盤締固め作業 <sup>*</sup> .....136	原動機燃料消費量 .....232
10. アスファルトフィニッシャ.....137	機種を選定 .....239
(1) アスファルト舗装工 <sup>*</sup> .....137	運転手職種別の対象機械 .....243
11. コンクリートポンプ車.....142	押土作業等の適用土質に対する損
(1) コンクリート打設作業 <sup>*</sup> .....142	料補正 .....246
12. そ の 他.....145	指定・任意について .....248
(1) 場所打杭工(アースオーガ	施工技術の動向について .....253

クレーン機能付きバックホウにつ いて .....	342	関する技術基準 .....	349
排出ガス対策型建設機械の普及促 進に関する規程 .....	344	建設機械施工安全技術指針の一部 改正について .....	352
排出ガス対策型原動機の認定及び 排出ガス対策型建設機械の指定に		建設機械施工安全技術指針の一部 改正における周知について .....	353

## 土地改良工事編

<b>第1章 積算体系</b> .....	369	(2) 弾丸暗渠排水工 .....	394
1. 土地改良工事 .....	369	(3) 畑面整地工（参考歩掛） .....	396
2. 積算体系 .....	370	2. レーキドーザ .....	401
(1) 直接工事費 .....	370	(1) 抜根作業 .....	401
(2) 間接工事費 .....	372	(2) 排根作業 .....	405
(3) 一般管理費等 .....	376	3. リップドーザ .....	411
(4) 消費税相当額 .....	377	(1) 岩掘削（農用地造成工用） .....	411
<b>第2章 機械経費の積算</b> .....	379	(2) 耕起・深耕作業 .....	415
1. 機械経費の構成 .....	379	4. スクレーブドーザ（参考歩掛） .....	417
2. 機械損料 .....	379	(1) 掘削・運搬作業 .....	417
(1) 運転損料と供用損料による積 算 .....	379	5. 被けん引式スクレーパ（参考歩 掛） .....	419
(2) 換算値損料による積算 .....	382	(1) 掘削・運搬作業 .....	419
(3) 供用日単位による積算 .....	383	6. バックホウ .....	423
(4) 無償貸与機械の積算 .....	384	(1) 暗渠排水工 .....	423
(5) 機械損料の補正 .....	384	7. トレンチャ .....	425
3. 運転経費 .....	385	(1) 暗渠排水工 .....	425
(1) 燃料費，油脂費および電力料 .....	385	(2) 自動埋設暗渠工 .....	426
(2) 運転労務費 .....	385	8. ブラッシュブレーカ .....	427
(3) 消耗部品費 .....	386	(1) 耕起作業 .....	427
(4) 雑品費 .....	387	9. ライムソーワ .....	429
4. 機械経費算出例 .....	387	(1) 土壌改良資材散布作業 .....	429
<b>第3章 機械経費計算実例</b> .....	389	10. マニアスプレッド .....	434
1. ブルドーザ .....	389	(1) 有機質資材散布作業 .....	434
(1) ほ場整備整地工 .....	389	11. ロータリーティラー .....	437
		(1) 耕起・砕土作業 .....	437
		12. ケンブリッジローラ .....	441

(1) 鎮圧作業 .....	441	土地改良事業等請負工事機械経費	
		算定基準について .....	446
<b>第4章 資 料</b> .....	445	機種の選定 .....	456
<b>建設機械経費 Q &amp; A</b> .....			467

# 建設機械概要

## 1. 建設機械の歴史と変遷

わが国における建設の機械化は、明治初年（1870年頃）トンネル掘削に空気式ハンマ類が使われ、明治中期（1900年頃）から第二次世界大戦前（1940年頃）までは河川改修工事、鉄道やダム建設工事などにラダーエキスカベータ、機関車、機械式ショベルなどスキーム利用の機械類や浚渫船が活躍した。

第二次世界大戦中の昭和18（1943）年頃から道路建設、飛行場設営のために近代建設機械の研究が行われ、一部使用されたが、性能、機能とも十分とはいえなかった。

戦後になって昭和20（1945）年頃から機械での開墾のため、一連の機械が国から発注され、近代建設機械の育成が図られることになった。河川工事機械ではスチームエンジンが主力であったラダーエキスカベータ、機関車のディーゼル化に始まり、ブルドーザ、機械式ショベル、ダンプトラックの導入および国産化が行われた。道路工事機械は昭和27（1952）年頃より各種締固め機械、コンクリート舗装機械が製作されるようになり、昭和30（1955）年代に入り高速自動車道の建設に代表される道路建設ブームとともに大いに発展した。昭和35（1960）年頃より高架橋工事の多い都市内高速道路の建設、東海道新幹線の建設、オリンピックを頂点とするビル建設工事の隆盛などにより、基礎工事機械が発達した。

現在、建設機械の中で圧倒的に多くの生産高を誇る油圧ショベルも、昭和36（1961）年に技術提携により欧州から導入されている。昭和55（1980）年頃まで高速道、産業施設、大型団地などの大規模社会資本投資が積極的に行われ、日本経済の高度成長とともに建設工事量の増大に対処して建設機械生産高はこの期間に約13倍に伸びている。既存機種の大形化、高所作業車、不整地運搬車などの新たな機種の拡大、各機械の高能力化が急速に行われる一方、騒音等公害が問題化して低騒音型機械が開発され、建設労働者の不足に対して省力化が叫ばれ、各種小型機械が開発されている。

昭和54（1979）年頃から都市土木、生活福祉関連工事に重点が置かれ、機械の小形化、多用途化が図られている。狭い所でも全旋回できる超小旋回形油圧ショベルや、労働力不足を補う配筋ロボット、外壁塗装ロボット、コンクリート床仕上げロボットなど各種のロボットが開発された。建設業界では建設機械レンタル業の進歩や土木、基礎工、塗装工など専門工事業の発展による施工の分業化も進んだ。

平成2（1990）年を最後にバブルがはじけてから建設機械の生産高は大幅に低下した

が、機械の技術面ではむしろ大きく前進した。きめ細かな作業の機械化と省力化、多機能化が進んだ。騒音・振動・排出ガス対策も行われ、操作パターンの統一、安全標識の制定、後方小旋回型油圧ショベルの出現など安全面でも進歩した。

安全対策への取り組みとして、国土交通省では平成6年に定められた「建設機械施工安全技術指針」を平成17年3月に改訂した。

また、建設機械においてもリスクアセスメントの考え方が取り入れられ、安全設計に関わるC規格を作成中である。

環境対策については、低騒音・低振動型建設機械の開発、排出ガス対策型建設機械の開発と、進められてきたが平成15年10月から道路運送車両法に基づく公道を走行する大型特殊自動車の排出ガスの使用規制が施工され、さらに平成18年10月からは公道以外のいわゆるオフロードを走行する車両である建設機械に対しても排出ガス規制が施工される。

最後に、近年建設分野へのIT導入の一つとして情報化施工と言われるGISやGPSおよび各種センサ等を含めた測量技術、自動化技術、通信技術を集積し施工計画から施工、施工管理に至る一連の施工情報を電子媒体で共有化し、効率的な信頼性のある施工を目指すものが増えてきている。

これからの建設機械はミニ化、汎用機化の方向あるいは大型化、高機能化、専用機化の極分化の傾向に沿って高度な技術を活用した施工システム化を目指して進んでいく。

## 2. 建設機械の分類

一般に土木工事や建築工事などを総称して建設工事と呼んでおり、建設工事に使用される機械類を「建設機械」と呼んでいるが、建設機械には建設工事専用に使われる機械の他に、農業や鉱業、一般産業などで使用されている機械を転用して使用しているものも多い。したがって、建設機械は建設工事に使用することを主目的として製造された機械と定義されるが、世界的に定義されたものはない。

建設機械の分類方法としては、対象事業別（道路、港湾、ダムなど）、工種工法別（土工、舗装、基礎、掘削、運搬、締固めなど）、類似構造別（トラクタ系、ショベル系など）があり、目的に応じて使い分けている。例えばブルドーザの本体を利用してクローラローダ（トラクタショベル）が派生し、ショベルの本体を利用してクレーンや基礎工事機械ができたように、機械の発展過程をとらえた類似構造別の分類が長らく使われてきたが、近年は世界的にも工種工法別や用途別による分類が一番多く使われている。表1に建設機械等損料算定表の分類における関連機種を示す。

これらの建設機械の規格表示は、作業能力の目安となる作業装置の大きさ（ $m$ 、 $m^3$ ）、作業能力（ $t$ 吊、 $m^3/h$ 、 $t$ 積）、機械の質量（ $t$ 、一般に運転質量で表す）、エンジン出力（ $kW$ ）などで代表させることが多い（例、ローダ $1.3m^3$ 、クローラクレーン $25t$ 吊、ブルドーザ $11t$ 、バイプロハンマ $40kW$ などと表示）。

表 1 建設機械の分類

区分	コード	大分類	機 械 名
一般機械	01	ブルドーザ及びスクレーパ	ブルドーザ, スクレープドーザ, 被けん引式スクレーパ, モータスクレーパ
	02	掘削及び積込機	小型バックホウ(ミニホウ), バックホウ, ドラグライン及びクラムシエル, 泥上掘削機, クローラローダ(トラクタショベル), ホイールローダ(トラクタショベル), トレンチャ
	03	運搬機械	ダンプトラック, トラック, トレーラ, 機関車(整流器付), スリ鋼車, シャトルカー, 油圧転倒装置, 不整地運搬車
	04	クレーンその他の荷役機械	クローラクレーン, トラッククレーン, ラフテレーンクレーン, タワークレーン, ジブクレーン, 二本構リフト, 一本構リフト, 工所用エレベータ, 門型クレーン, フォークリフト, コンクリート床仕上ロボット, 玉掛外しロボット, 高所作業車
	05	基礎工用機械	ディーゼルハンマ, 油圧ハンマ, パイプロハンマ, 杭打ち用ウォータージェット, アースオーガ, クローラ式杭打機, 油圧式鋼管圧入引抜機, 油圧式杭圧入引抜機, クローラ式サンドパイル打機, 粉体噴射攪拌機, クローラ式アースオーガ, トラック式アースオーガ, ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ, 揺動型オールケーシング掘削機, 全回転型オールケーシング掘削機, アースドリル, リバースサーキュレションドリル, 地下連続壁施工機, 等厚式ソイルセメント地中連続壁施工機, 側壁測定装置, 泥排水処理装置, アルカリ水中和装置, 汚泥吸排車, グラウトポンプ, グラウトミキサ, ニューマチックケーソン施工機器, 深層混合処理機, 高圧噴射攪拌用地盤改良機, 全自動モルタルプラント, 薬液注入施工機器, 深礎用ロータリー吹付機, 水中切断機, 杭抜き機, 杭破砕機
	06	せん孔機械及びトンネル工用機械	ボーリングマシン, ダウンザホールハンマ, さく岩機, 大型ブレイカ, クローラドリル, ドリルジャンボ, 自由断面トンネル掘削機, バックホウ, クローラローダ, ホイールローダ, スリ積機, 電動油圧ショベル, コンクリート吹付機, ダンプトラック, トラック, 支保工建込エレクタ, 油圧式トンネル切削機, 濁水処理装置, グラブホッパ, グラブリフター, トンネル断面測定器, NATM用機器, シールド工用機器, 泥水式シールド関連機器, 泥水式・泥土圧式共通機器
	07	モータグレーダ及び路盤用機械	モータグレーダ, スタビライザ, ミキシングプラント, 超軟弱地盤用混合機
	08	締固め機械	ロードローラ, タイヤローラ, 振動ローラ, タンパ及びランマ, 振動コンバクタ, 土工用振動ローラ
	09	コンクリート機械	コンクリートプラント, トラックミキサ及びアジテータトラック, コンクリートポンプ車, コンクリートポンプ, コンクリートブレーサ, アジテータカ, コンクリート圧砕機
	10	舗装機械	アスファルトプラント, 併設加熱型リサイクルプラント(工場用), アスファルトフィニッシャ, アスファルトケトル, ディストリビュータ, チップスプレッタ, アスファルトクッカ, コンクリートスプレッタ, コンクリートフィニッシャ, コンクリートレベラー, コンクリート簡易仕上機, コンクリート横取機, 振動目地切機, 舗装用スチールホーム, インナーパイプレータ, アスファルトエンジンブレーヤ, アスファルトカーバ, ジョイントシーラ, プレーサスプレッタ, スリップフォームペーバ, キュアリングマシン

区分	コード	大分類	機 械 名
一 般	11	道路維持用機械	路面ヒータ, ジョイントクリーナ, 路面清掃車, ラインマーカ, 溶解槽, 区画線消去機, 路面切削機, 路上表層再生機, 路面ヒータ(路上再生機組合せ用), ガードレール清掃車, 路面安全溝切削機(グルーピング機械), 散水車, ガードレール支柱打込機, 区画線施工機, 床版上面増厚機, マイクロサーフェスマシン, 排水性舗装機能回復機, コンクリートカッタ, フォームドスタビライザ
	12	空気圧縮機及び送風機	空気圧縮機, 送風機, ファン
	13	建設用ポンプ	小型うず巻ポンプ, 小型多段遠心ポンプ(タービンポンプ), 深井戸用水中モータポンプ, 真空ポンプ, 工事用水中モータポンプ(潜水ポンプ), 水中サンドポンプ(攪拌装置付工事用水中ポンプ), スラリーポンプ
	15	電気機器	変圧器, 高圧気中開閉器, キュービクル式高圧受変電設備, 発電発電機
	16	ウインチ類	電動ホイスト, ウインチ, モータウインチ, エアーホイスト, チェンブロック
	17	試験測定機器	トラックスケール, 計量器, CBR 試験器, 平板載荷試験装置, グラウト流量・圧力測定装置, ガス検知器, 騒音計・振動計測機器, 沈下・傾斜測定機器, 粉塵計, 濁度計, 自動測量機器, 光波測定器, その他の試験/測定機器
	18	鋼橋・PC 橋架設用仮設備機器	架設桁, ベント, 門型クレーンフレーム, 門型クレーン走行装置, 電動ホイスト, チェンブロック, ギヤードトオリ, 巻上機, ウインチ, 油圧ジャッキ, センターホールジャッキ, ジャーナルジャッキ, 油圧ジャッキ送り台, 油圧ポンプ, 重量台車, 自走台車, 発電機積載台車, 多軸式特殊台車, 油圧式昇降ジャッキ本体, 油圧式昇降ジャッキ・ポンプユニット, 多軸式特殊台車用ターンテーブル, 送出しローラ, 鉄塔, キャリア, サドル, バックスティ調整装置, ケーブル定着装置, ターンバックル, ロープハンガ, アンリローラ, 送出し装置, 横取り装置エンドレスローラ型, 鋼桁横取装置油圧ジャッキ式, 降下装置ジャッキングホイスト, 降下装置, 油圧ポンプ, 手延機, トラベラークレーン, トラベリングエレクションクレーン, 移動型枠工, 桁吊り装置, 二組桁用吊り装置, 桁吊り金具, 桁吊り門構移動装置, ターンテーブル, 横取装置スチールボール型, 片持架設用移動作業車, 押し手延桁, 手延先端油圧ジャッキ, 集中方式押し工法用機器反力台, アンカー, 押しジャッキ, 油圧ポンプ, 分散方式押し工法用機器滑り架台, 水平ジャッキ, 鉛直ジャッキ, 油圧ポンプ, 中央制御盤, 現場制御盤, 大型移動支保工, 地覆高欄作業車, 台車式 PC 桁横取り装置, 仮受梁, 電気溶接機, 整流器, フラックス回収機, 溶接棒乾燥機, 溶接裏当材治具, レバブロック, チルホール, 電動油圧チルホール, 仮締めボルト, ドリフトピン, 工具, 送風機, 滑車, ワイヤロープ, 玉掛けワイヤ, 軌条, 枕木, 電線, ハンドミキサ, グラウト注入機, グラウトミキサ, グラウト流量計, 小型渦巻ポンプ, 床版撤去用ジャッキ設備
機 械			

区分	コード	大分類	機 械 名
一般機械	20	その他の機器	コンクリートミキサ、骨材計量器、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、ジョークラッシャ、インパクトクラッシャ、電気溶接機、溶接棒乾燥機、油圧ジャッキ、モンケン、軌条、分岐線、ターンテーブル、ベルトコンベヤ、モルタルコンクリート吹付機、コンクリート吹付機、急結剤供給装置、種子吹付機、ベントナイトミキサ、水槽、中小型トラック、ライトバン、総輪駆動車、マイクロバス、草刈機、チェーンソー、フロート、工事用信号機、電気ドリル・ハンマドリル、工事用高圧洗浄機、薬剤散布機、集草機、ジェットヒータ、パッカー車、自走式破砕機、自走式土質改良機、自走式木材破砕機、自走式スクリーン、コンクリート穿孔機、コンクリート壁面カッター、コンクリート静的破壊装置
作業船および付属品	30	主作業船	ポンプ浚渫船、汚泥浚渫船、グラブ浚渫船、バックホウ浚渫船、マイクロポンプ船、揚土船、バージアンローダ船、空気圧送船、自航起重機船、起重機船、クレーン付台船、杭打船、コンクリートミキサ船、ケーソン製作用台船、自己昇降式台船、深層混合処理船、サンドドレーン船、サンドコンパクション船
	31	付属作業船	揚錨船、引船、押船、交通船、潜水士船、ガット船、ガットバージ、石運船、土運船、押航土運船、台船、スパット台船
	32	作業船用付属品	排砂管、仕切弁、曲管、分岐管、フロータ、ジョイント、汚濁防止柵、ケーシングパイプ
	33	港湾工船用付属機器	気中開閉器、引込盤、受配電盤、タイトランス、誘導形電圧調整器、被覆硬銅線、キャブタイヤケーブル、水底ケーブル、灯浮標、標識灯、音響測深機、電波測位機、光波式位置測定器、地層深査機、機雷探査機
ダム施工機械等	40	コンクリート生産設備	コンクリートプラント
	41	コンクリート運搬設備	ケーブルクレーン、ジブクレーン、タワークレーン、トランスファーカ
	42	コンクリート冷却設備	クーリングプラント
	43	骨材生産設備	ジョークラッシャ、コーンクラッシャ、ロッドミル、スクラバ、分級機、振動フィーダ、エプロンフィーダ、振動ふるい、ベルトコンベヤ
	44	セメント輸送および貯蔵設備	スクリュコンベヤ、バケットエレベータ、セメント空気輸送機、セメントサイロ
	45	給水設備	渦巻ポンプ、多段式ポンプ
	46	公害対策設備	濁水処理プラント、加圧脱水機、中和処理設備
	47	その他のダム施工機械等	コンクリート締固機、コンクリート表面掃除機、スライム回収機、引出しゲート、貯蔵ピン、グリズリ、スクリーンタワー、架台、操作盤、脚及びロックラダー、グラウト中央プラント、グラウトデータレコーダ、グラウトデータ処理装置、振動目地切機
除雪用機械	50	除雪機械	除雪ドーザ、除雪トラック、除雪グレーダ、多目的作業車、ロータリ除雪車、一車線積込除雪車、小型ロータリ除雪機
	51	雪上車	雪上車
	52	除雪装置	ロータリ除雪装置、路面整正装置、凍結防止剤散布装置
	53	除雪専用アタッチメント	ワンウェイブ라우、アングリングブ라우、マルチブ라우、Vブ라우、サイドウイング、スノーバケット、サイドシャッター、セフティブレード
	55	散布車	凍結防止剤散布車

(注) 上記分類は、「建設機械等損料算定表(平成18年度版)」に基づき中分類の機械名までを一覧表とした。